

2022年7月28日所長会見 所感

- 福島第一原子力発電所の事故により、今もなお、大変多くの皆さまに、ご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、また、「核物質防護事案」や「安全対策工事の一部未完了」につきまして、地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご不安・ご不信を抱かせておりますことについて、深くお詫び申し上げます。
- 本日は、私からは4点お話しいたします。
- はじめに、原子力規制庁による2021年度の原子力防災訓練の評価結果についてです。
- 7月21日の原子力規制委員会において、今年2月に行った柏崎刈羽原子力発電所の原子力防災訓練の評価結果として、全14項目のうち、13項目についてA評価をいただいております。
- 2021年度の防災訓練においては、地震等の外部事象に加えて、原子炉建屋などの建屋内における複数箇所での火災発生、火災が原因の計器故障の発生等、様々な条件付与を設定しましたが、適切な対応ができていたものと考えております。
- 防災訓練につきましては、先日メディアの皆さまに5号機緊急時対策所の様子をご取材いただきましたが、2014年度以降、毎月1回以上の訓練を実施しており、福島第一原子力発電所の事故以降では、合計140回以上の訓練を行ってまいりました。
- 今後も多様なシナリオによる訓練を継続的に実施し、有事における対応能力の向上を図り、地域の皆さまにご安心いただけるよう、歩みを止めることなく取り組んでまいります。

- 2点目は、7月25日に核セキュリティ専門家評価委員会より受領した報告書についてです。
- 委員会からは、経営幹部の積極的な関与や挨拶運動などにより、発電所に来るたびに明るさを感じるようになり、改善措置計画が着実に進んでいるとご評価をいただきました。私自身、社員とともに毎朝6時半から正門前に立ち、挨拶運動を続けておりますが、車で入構する際に、警備員に対して窓を開けて入構証をしっかりと見せてくれる方や、挨拶を返してくれる方がかなり増えてきたと実感しているところです。
- 一方で、大きく5つの提言をいただきました。検査を受ける側と検査を行う側のコミュニケーション不足や、迷惑警報対策に時間がかかっていることなど、これまで当社が改善措置活動の中で取り組んできたものの、まだまだ不足している部分があると感じたところです。
- いただいたご指摘や提言を真摯に受け止め、発電所の核セキュリティ向上に向けた取り組みにしっかりと反映させるべく、全社一丸となって改善を進めてまいります。
- また、板橋委員長からも懸念が示されておりましたが、改善措置計画を進める中で、社員が期限切れ入構証で入構していた事案などが発生し、地域の皆さまをはじめ、社会の皆さまにご不安やご不信を抱かせていることについて、あらためてお詫び申し上げます。
- 引き続き、社員の核セキュリティに対する意識の向上を図るとともに、核セキュリティ専門家評価委員会の評価報告書でもご指摘いただいたように、人だけに頼るのではなく、システム側で歯止めを効かせられるよう改善に努めてまいりたいと考えております。

- 3点目に、6号機大物搬入建屋の杭損傷に関する対応についてです。
- 本日午後に、原子力規制委員会の審査会合が開かれる予定ですが、当社が、建設残置物の影響と考えている、杭の損傷原因について説明を求められておりましたので、それらについてご審議いただく予定です。引き続き原子力規制委員会の審査に真摯に対応してまいります。
- また、7月20日より、4号機大物搬入建屋の掘削調査を始めるとともに、6号機フィルターベント基礎部の残置物調査に向けた仮設スロープの設置工事を始めております。
- 4号機大物搬入建屋の掘削工事については、昨日までに6本全ての杭が、表面の大部分に砂が付着した状態で露出しております。今後、杭周囲に付着している砂などを取り除き、詳細に確認してまいります。
なお、1本の杭で、軽微なひび割れを確認しておりますが、現時点で6号機大物搬入建屋において確認されたような、耐震性に影響を及ぼす可能性がある損傷は確認されておられません。
- 6号機フィルターベント基礎部の調査に関しては、掘削用の重機を基礎下に配置するための仮設スロープを設置しているところです。
スロープ設置を進める中、フィルターベント基礎の手前側で、建設当時に大型クレーンを配置するために施工した、改良土の計画範囲内において、建設残置物を確認しておりますが、今後、フィルターベント基礎下へ向けて掘り進め、フィルターベント基礎杭への干渉の有無について確認してまいります。
- 引き続き、安全最優先で調査を進め、調査結果につきましては、取りまとめ次第お知らせさせていただきます。
なお、安全性に影響を及ぼす可能性のある損傷等が確認された際は、速やかにお知らせさせていただきます。

- 4点目は「柏崎刈羽原子力発電所の志」の実践についてです。お手元の資料をご覧ください。
- 7月は、荒浜海岸の清掃活動と、3年振りに開催された「ぎおん 柏崎まつり 海の大花火大会」の翌朝の清掃活動に、原子力・立地本部長の福田や私をはじめ、所員や協力企業の皆さまを含めた110名で参加いたしました。
- 荒浜海岸の清掃活動では、プラスチックなどのごみが多くあり、地域の皆さまと一緒に汗をかき、海岸をきれいにするすることで、あらためて私たちも地域の一員であるということを強く意識しました。
- また、この清掃活動をしている中で、発電所敷地内の海岸についても、核防護設備の保全の観点から、清掃を行う必要性を感じ、早速、所員とともに、7月31日に清掃活動を実施する予定です。
- 引き続き、地域に愛され、信頼される発電所となれるよう、「志」の実践を積み重ねてまいります。
- 最後になりますが、7月30日と31日にサービスホールにおいて、「原子力発電と水のつながり」や「生き物調べ」など、夏休みの自由研究にちなんだイベントを開催いたしますので、多くの皆さまにお越しいただきたいと考えております。
イベントには私も参加する予定ですので、地域の皆さまとの交流を深めてまいりたいと思います。
- なお、開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、実施いたします。
- 私からは以上です。